四国の蛾の分布資料(Ⅲ)
カトカラ4種の新産地について

増　井　武　彦
(760) 香川県高松市扇町1—25—51

Notes on the moths of Shikoku (Ⅲ)
Additional records of the genus *Catocala* from Shikoku
(Lepidoptera : Noctuidae)

TAKEHIKO MASUI

筆者はさきに，本誌上で，香川県のカトカラについてまとめ，16種のカトカラが産することを報告した（増井，1976）．その後，香川県未記録のナマリキシタバのほか，同県下でマメキシタバの3新産地を見出した．さらに徳島県から同県未記録のヨシノキシタバ，ゴマシオキシタバも見出したので，ここに報告する．

日頃，種々御教示をいただき，本報告の校閲を願った杉繁郎氏，データの発表を快諾いただいた小豆島高校生物部員の山口昌夫，上谷保則両君に感謝する．また写真撮影を願った串田光祥氏にお礼申し上げる．

採集はすべて夜間採集により行い，特記以外はすべて筆者が採集し保管している．

1. *Catocala duplicata* Butler　マメキシタバ

杉（1971）によれば，本種は北海道西南部から中国地方の広島県まで分布する内陸的な種で，*Quercus* を食樹としているが，ミズナラよりむしろコナラを好む食性をもっているという．本州中部以北では割合山地に産するが，西部（滋賀県，兵庫県）では，低標高地の二次林で発見されている．

前報で，筆者は香川県下の大滝山山頂で採った2♂をもって四国にも本種が分布していることを明らかにした．そしてこの事実から，香川県ではミズナラを含むブナ帯の山地に残存している種と考えていた．

ところが1977年の調査で，ほぼ平地に近い藤尾神社のアラカシを主とした暖帯樹林で1♂を，讃岐山地の前山にあたる標高350mほどの低山地の戸石で2♂を，また瀬戸内海上にある小豆島の寒霞渓の山頂でも2♂を得た．ここに追加した3新産地からみると，やはり四国の香川県においても低地にまで棲息している種で，これが西南日本における一般的な分布状況と考えられる．しかし，得られた個体数は現在まで7個体のみであり，非常に少ない種であることに変わりがない．西南日本における産地が，小豆島を含む雨量の少ない瀬戸内海を中心として，香川，広島，兵庫，滋賀にあることは，内陸性の乾燥地帯を好む本種の性格を表しているようで興味深い．データは次のとおりである．

藤尾神社（香川県高松市西植田町，180m）1♂，9. VII. 1977.

戸石（香川県香川郡塩江町，360m）1♂，17. VIII；1♂．18. VIII. 1977.

寒霞渓・三笠（香川県小豆郡内海町，620m）2♂，10. VII. 1977.

2. *Catocala nubila* Butler　ゴマシオキシタバ (Fig. 1) 徳島県未記録．

本種は *Fagus* 属のブナ，イヌブナを食樹としており，中部以北では産地も多く多産する．近畿以西は九州まで広

く分布するが，産地は高標高地に限定されている.

四国ではこれまでに，愛媛県石鎚山・成就社（小島ら，1964），高知県手箱山（小島ら，1964），香川県大滝山（佐藤，1974）の記録がある．徳島県での記録は小谷（1971）が種名を挙げているのみで，産地などのデータは欠けている．そこで筆者が採集した次の記録を報告しておく．剣山見越付近での本種の発生量はカトカラの中では少なくなく，成虫がみられる期間も一番長いようである.

剣山・見越（徳島県三好郡西祖谷山村，1500m）1♂，9. VIII；1♂. 16. X. 1976；4♂2♀，20. VIII；1♀，18. IX；1♂，5. XI. 1977.

なお，室戸市の記録（小島ら，1964）は他種の同定ちがいの疑いがあることが杉（1968）によって指摘されているので削除しておく.

3. *Catocala connexa* Butler ヨシノキシタバ（Fig. 2）徳島県未記録

本種はブナを食樹としているために前種と同じ分布をしている．四国における唯一の記録は愛媛県面河渓の1個体のみであった（小島ら，1964）．筆者は1977年8月20日，剣山でゴマシオキシタバとともに本種の1♀を採集した．これは徳島県で初めてで，四国では2頭目の記録である．今まで筆者はゴマシオキシタバを剣山・見越で10個体採集しているのに対して本種は1個体であることは，四国でもヨシノキシタバの個体数は少ないものと思われる．剣山見越はブナ食のゴマシオキシタバとヨシノキシタバ両種の採れた四国唯一の地点となる．なお前報で筆者は高知県でヨシノキシタバの記録があるように書いたが，これは愛媛県の誤記であるので訂正しておく．データは次の通りである.

剣山・見越（徳島県三好郡西祖谷山村：1500 m）1♀，20. VIII. 1977.

4. *Catocala columbina* Leech ナマリキシタバ（Fig. 3）香川県未記録

杉（1972）によれば本種は中国大陸の揚子江流域に分布の中心をもった暖温帯の蛾である．本州では，東京，埼玉，長野，富山，滋賀，岡山の都県で採れているが（Sugi, 1965；鳥濕, 1965；山本, 1967；中川, 1974），長野県島々谷を除くとどこの産地も1個体程度の記録しかなく，ごく少ない種である.

四国では徳島県に限って高越山，焼山寺，上那賀町，木頭村の4産地が知られており（小谷，1962；永井，1968），那賀川流域は比較的個体数も少なくないようである.

筆者は，かねてから隣県の徳島県に産する本種が香川県下から必ず発見できるものと期待していた．意外にも，予想していた讃岐山地とは距離的に大きく離れた瀬戸内海上の小豆島で，1975年および1976年に本種5個体が小豆島高等学校の生物部員の手によって採集された．筆者も，1977年7月10日に2地点で，32個体
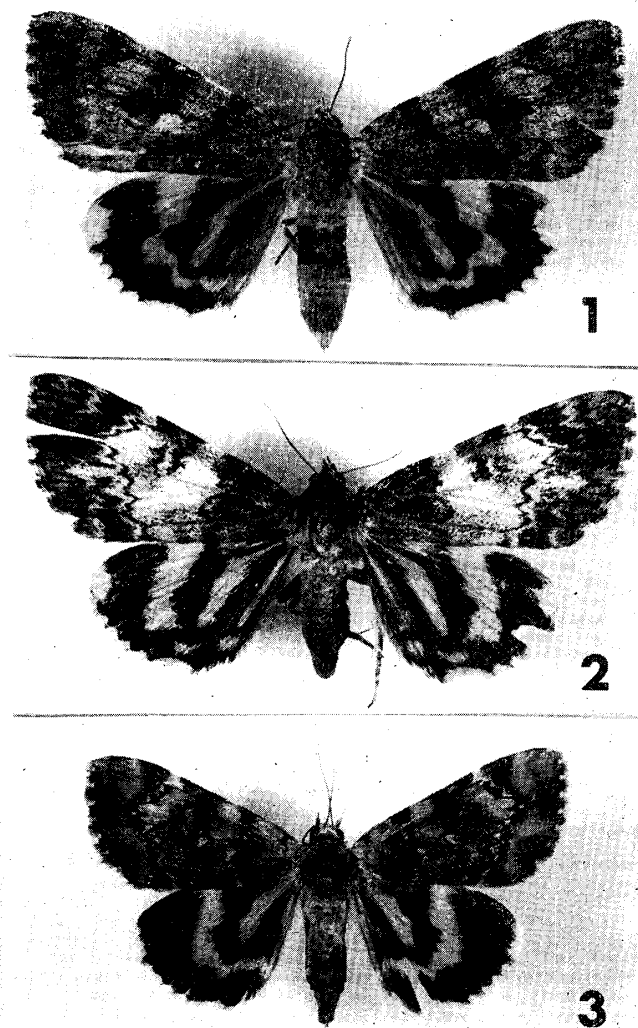
Fig. 1. *Catocala nubila* ゴマシオキシタバ
Fig. 2. *C. connexa* ヨシノキシタバ
Fig. 3. *C. columbina* ナマリキシタバ
(×1.15)

を採集し，多産地であることを確認することができた.

寒霞渓・三笠（香川県小豆郡内海町，620m）2 exs., 4. VIII. 1975；1 ex., 6. VIII；1♂1♀, 8. VIII. 1976（以上，小豆島高校生物部採集，1♂1♀筆者保管）13♂4♀, 10. VII. 1977.

寒霞渓・紅雲亭（香川県小豆郡内海町，300m）10♂5♀, 10. VII. 1977.

小豆島の植生は，概略的には香川県本土とはあまり変わらないが，本種の採れた寒霞渓は凝灰岩，集塊岩が風化侵食を受けて絶壁となっている．上部はイワシデなどのシデ林で，中腹はコナラ―カエデ林という特異な林相をなしている．三笠と紅雲亭はこの絶壁の上下に位置し，その間の谷間に想像以上のナマリキシタバが発生しているものと思われる．また，ここが島の中央部に位置しているものの，海岸より4kmであることは，その他の全国の産地が内陸部奥深いところにあるのに比べると，やや変わった産地ということになる.

一方，本種の幼生期はまだ不明であるが，以前未知のカトカラの幼虫が *Acer* 属のチドリノキから採集され，ナマリキシタバではないかとも考えられていたが，少なくとも小豆島にはチドリノキは自生していない．ここでは何か他の植物を食樹としていると思われる．この問題を解決するには．この地域が絶好の場所であろう.

Fig. 4 は本報で取扱った4種のカトカラの四国内での分布図である.

四国より記録されているカトカラは19種で本報で追加するものはないが，香川県下のリストはナマリキシタバを追加したので17種に達した．香川県以外の他県のリストは現段階では，普通種と思われるものもまだ報告されてないような状態であるので，今後，調査を継続してまとめる.
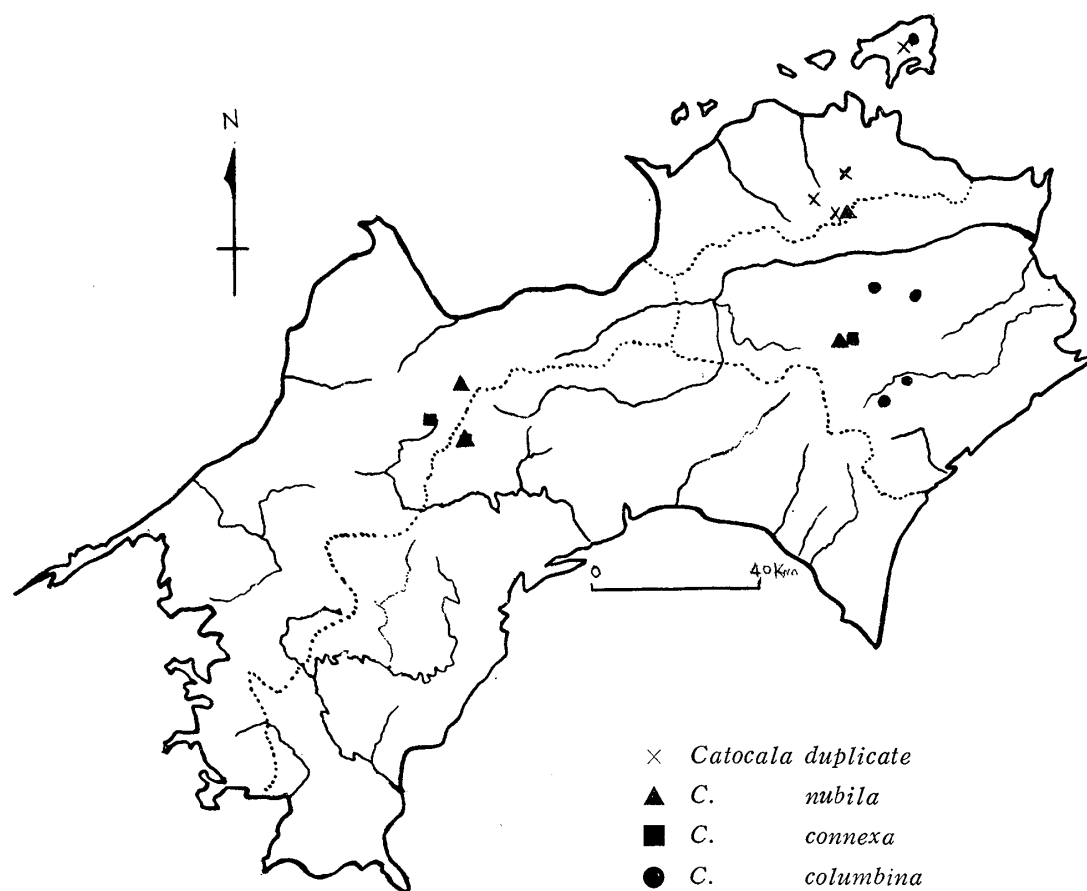
Fig. 4. Distribution of four species of *Catocla* in Shikoku.

Summary

In this paper, new habitats of four species of the genus *Catocala* in Shikoku are recorded. Five males of *C. duplicata* were captured from three localites in Kagawa Prefecture. Seven males and three females of *C. nubila and* one female of *C. connexa* were captured on Mt. Tsurugi (1500m). These are the first records from Tokushima Pref..

Thirty-seven individuals of *C. columbina* are newly recorded from Shôdoshima in Kagawa Pref., where the species inhabits abunduntly.

文　献

小島圭三・和田豊洲・中村重久・河上友三・岩崎起久子 (1964) 四国産ガ類. 高知大学学術報告, 13：自然科学II (4)：81—186, pl. 4.

小谷知福 (1962) 徳島県産蛾類仮目録 (1) 自刊, pl. 1.

小谷知福 (1971) 徳島県のヤガ. 誘蛾燈, (44)：25—29.

永井洋三 (1968) 神山町のガ類. 阿波の自然, 第5回学術総合調査, 神山町調査報告書 105—112, 徳島県.

中川秀幸 (1974) ナマリキシタバを黒部峡谷で採集. 蛾類通信, (80)：329.

増井武彦 (1976) 四国の蛾の分布資料 (I) 香川県のカトカラ. 蝶と蛾. 27 (2)：66—72.

佐藤正昭 (1974) 香川県香東川流域の珍種蛾類 (II). 蛾類通信, (76)：267—273.

Sugi, S. (1965) New and unrecorded species of *Catocala* Ochs. from Japan and Formosa. Tinea, 7 (1)：84—93.

杉　繁郎 (1968) ゴマシオキシタバの分布と食樹. 蛾類通信, (52)：561—564.

杉　繁郎 (1971) 日本の *Catocala* その自然誌的展望 (1). 月刊むし, (3)：12—20.

杉　繁郎 (1972) 日本の *Catocala* その自然誌的展望 (3). 月刊むし, (12)：2—11.

鳥潟顕雄 (1965) ナマリキシタバの新産地. 寄せ蛾記, (3)：13.

山本光人 (1967) ナマリキシタバ岡山県に産す. 蛾類通信, (46)：457.

日本鱗翅学会　第25回大会（1978年, 東京）予告

期　　日： 1978年11月4日 (土) 1～5 P.M., 5日 (日) 10 A.M.～5 P.M.

会　　場： 東京医科歯科大学　1号館9階特別講堂
(東京都文京区湯島一丁目5番47号)
国鉄 (中央線, 総武線)：「御茶ノ水」駅下車
地下鉄 (丸ノ内線, 千代田線)：「新御茶ノ水」駅下車

懇 親 会： 1978年11月4日, 5：30 P.M.
東京医科歯科大学「グリル・セインツ」(会費　約4,000円の予定)

多数の方の御参加をお待ちしております.

日本鱗翅学会 関東支部
〒253　神奈川県茅ケ崎市赤羽根3153
木　村　春　夫 方